病　防　第　351 号
令和７年 12 月 25 日

関係機関長　殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
（ 公 印 省 略 ）

病害虫発生予察注意報について

令和７年度病害虫発生予察注意報第６号を発表したので送付します。

令和７年度病害虫発生予察注意報第６号

１　作物名　　さとうきび

２　害虫名　　メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ）

３　発生地域　　南大東島

４　注意報発令の根拠

令和７年 12 月上旬に南大東村において新植夏植えおよび株出しほ場で芯枯れ茎率調査を行った結果、新植夏植えで 11.9%、株出しで 20.4%と国が定める発生程度別基準で（多の被害率は 11～20%）いずれも発生程度は「多」であった。また、発生ほ場率は 100%であった（図１）。芯枯れ茎の切開調査の結果、確認されたメイチュウ類は全てカンシャシンクイハマキだった。

図１　芯枯れ茎の発生状況

５　発生生態および被害

（１）メイチュウ類共通

ａ 被害ほ場およびイネ科雑草が発生源となり、ほ場に侵入する。

ｂ ふ化幼虫は葉鞘の内側を下降して節部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れ（図２）を起こす。

（２）カンシャシンクイハマキ（図３）

ａ 沖縄では年６～７世代を重ね、周年発生する。

ｂ 卵は葉や茎に１～数卵ずつ産み付けられ、１雌当たりの生涯産卵数は 200～500 卵に達する。

ｃ 被害はほ場内に散在的に発生する。

６ 防除上注意すべき事項

（１）ほ場および周辺の除草を徹底する。

（２）夏植えおよび株出しでは、発芽または萌芽揃期からの芯枯れを防止するため、食入初期の幼虫を想定して薬剤による予防散布を行う。

（３）培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤（粒剤）を施用する。

（４）茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

（５）薬剤防除後、２～３週間をおいて再度防除を行うことで防除効果が高まる。

（６）被害の多い地域では薬剤による一斉防除を行う。

※農薬の使用にあたっては、ラベルをよく読み、登録内容を確認して正しく使用する。

図２ 芯枯れ茎

図３ カンシャシンクイハマキ幼虫

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL ： （本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html